

2012～2013年度
国際ロータリー第2790地区 第13分区

I. M. 並びに合同例会

Peace through service
奉仕を通じて平和を

I. M. テーマ 「ロータリーの夢」

日 時	2013年2月9日(土)13:30～17:10
場 所	クリアビューG & H
主 催	国際ロータリー第2790地区第13分区
参加クラブ	野田ロータリークラブ、流山ロータリークラブ 流山中央ロータリークラブ、野田セントラルロータリークラブ 野田東ロータリークラブ (ホストクラブ)

目 次

第13分区 I. M. 並び合同例会プログラム

野田市長挨拶	1
リーダー挨拶	2
ガバナー補佐挨拶	5
ホストクラブ会長挨拶	6
〈提言発表 I. M. テーマ ロータリーの夢〉	
野田ロータリークラブ	7
流山ロータリークラブ	8
流山中央ロータリークラブ	10
野田セントラルロータリークラブ	12
野田東ロータリークラブ	13
合同例会 I. M. 懇親会スナップ	15

国際ロータリー第2790地区第13分区／I.M.並びに合同例会

平成25年2月9日(土)

プログラム

13:00	登録開始		
合同例会		(司会) ホストクラブ幹事	笠原紀彦
13:30	点鐘	ガバナー補佐	松田武
	国歌、ロータリーソング「奉仕の理想」		
	来賓、リーダーの紹介	ガバナー補佐	松田武
	参加クラブ紹介	ホストクラブ幹事	笠原紀彦
	物故会員への黙祷	ホストクラブ幹事	笠原紀彦
	歓迎の挨拶	ホストクラブ会長	吉澤太郎
	ガバナー補佐挨拶	ガバナー補佐	松田武
	来賓挨拶	野田市長	根本崇
14:00~14:30	リーダー挨拶及び基調講	バストガバナー	石井亮太郎
	点鐘	ガバナー補佐	松田武
14:30~14:40	<休憩>		
I.M. テーマ「ロータリーの夢		(司会進行) ガバナー補佐	松田武
14:40~15:20	提言発表		
	野田RC	会長エレクト	伊藤義雄
	流山RC	会長エレクト	岸本伸子
	流山中央RC	会長エレクト	金井直明
	野田セントラルRC	会長エレクト	古谷信承
	野田東RC	会長エレクト	沼野秀樹
15:20~15:40	講評	バストガバナー	石井亮太郎
15:40~16:00	直前ガバナー補佐、熊坂牧子様への感謝状及び記念品贈呈		
		(司会) ホストクラブ幹事	笠原紀彦
	リーダーへ記念品贈呈	ガバナー補佐	松田武
	次期ガバナー補佐紹介	ガバナー補佐	松田武
	次期ガバナー補佐挨拶	次期ガバナー補佐	田口佳子
	次期ホストクラブ紹介	ガバナー補佐	松田武
	次期ホストクラブ挨拶	流山中央RC	白須賀まり子
懇親会		(司会) ホストクラブ親睦委員長	上原元則
16:10~17:10	開会の言葉及びガバナー補佐挨拶	ガバナー補佐	松田武
	乾杯	ホストクラブ直前会長	遠藤博一
	閉会の辞	ホストクラブ副会長	井谷秀人



祝 辞

野田市長 根本 崇

ここに、国際ロータリー第2790地区第13分区のインター・シティ・ミーティング並びに合同例会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、第13分区のロータリアンの皆様方には、これまで地域に密着した積極的な奉仕活動等を実践されるとともに、本市に対しましても様々なご支援を賜っておりますことに深く感謝と敬意を表する次第です。

さて、平成15年6月に「平成の合併」として千葉県で初めて野田市と関宿町が合併して今年は10周年を迎えます。野田市と関宿町が合併してからこれまで、新市建設計画としても位置付けられている総合計画を皆様方のご協力をいただきながら着実に進めてまいりました。

この総合計画の計画期間が平成27年度で終了することから、現在、次期総合計画の策定に向けた作業を進めており、これまで公募委員も含めた総合計画審議会を立ち上げるとともに154人全員公募の分野別検討組織による検討結果を提言書としてまとめていただき、さらに、市民アンケートや地区別懇談会、各界懇談会を開催して様々な市民の方々のご意見等をいただき、整理を進めて参りました。

今年はこれらを踏まえて総合計画審議会で次期計画の骨格案を作成いただき、パブリック・コメント手続や地区別懇談会、各界懇談会を開催するなど策定作業を進めて参りますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

生物多様性の保全と回復を目指す取組につきましては、これまでの取組により野田市では沢山の生物が着実に戻っており、この取組が後世に引き継がれるよう、昨年12月、自然再生、生物多様性の充実のシンボルとして江川地区でコウノトリ2羽の飼育を開始いたしました。2月9日からは予約による一般公開を始めています。

これからも将来を担う子どもたちの未来のため、持続可能な農業の確立と自然環境の整備を進めて参ります。

また、地域防災計画の見直しや4月からの同報系防災行政無線の運用開始、平成27年度までに全ての小中学校の耐震化を完了させる等、安全安心で魅力あふれるまちづくりを進めて参りますので、第13分区の皆様方のなお一層のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、市民と行政のパートナーシップのリーダー役としてご活躍いただきますようご期待申し上げます。

結びにあたりまして、国際ロータリー第2790地区第13分区の今後益々のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。



I.M. 基調講演

パストガバナー 石井 亮太郎

13分区の皆様、今日は。本日のI.M.のリーダーとしてお招きを頂き、お伺いしました。

頂戴した案内には13時30分より登録、14時点鐘とありましたが、そのプログラムに合わせて出て参りましたが、予定事項が変更になっており、結局遅刻ということになり申し訳ありません。

ガバナー補佐の松田さんと私は同業でございまして、また釣り仲間でもあり、よく沖釣りに御一緒するのですが、平日釣りでは私は1枚も釣った事はありません。その様な関係にありますので、お声掛けがあったのではと思っております。

今日のI.M.のテーマは『ロータリーの夢』と題されておりますが、テーマに沿った基調スピーチができるかどうか解りませんが、近頃私が感じている事を申し上げたいと思います。

最近ロータリー財団も『未来夢計画』なるものを打ち出しております。財団は奨学金制度を永い間推進してきたわけでありましたが、近年になって奨学金の応募者が減少傾向にあるようで、新たな企画に依って財団基金の運用を計る計画を立てたということであります。

財団プログラムも近年は多様性を極めて居りまして、数多くの分野に亘る資金提供を行っておりますので、奨学金の額が薄くなっている処あたりが、応募者が少なくなってきたのではないのでしょうか。

近年奨学金を提供する団体、企業、国家等が多くなり、応募者の選択が広がったところでありましょう。

そもそもR財団の起因は、第一次大戦が始まって、アメリカの軍隊も参戦し、母国の人達が現地に慰問、見舞い、激励に出向きたくとも当時は飛行機も無く、船の旅では時間とお金が掛かり至難の事でした。その様な事態が発生した時の事を考え、1919年にアトランタで開催された大会で、時のR I会長アーチシー・クランプが全ロータリアンからの寄附をR Iが集め、必要な時にそれを機能させるという提案をしたのですが、当時のロータリアンたちはロータリー運動の原理に忠実な思考の会員が多く、この提案を非として寄附金は集まらず、次年度大会が開催されるカンサス・シティーのロータリアンが提案者の立場を慮り抛出された金額は26ドル50セントと云われております。その後、信託宣言をしたり、財団として認定を受け、初期の目的を求めて参りましたが、基金は思うように集まらず、鳴かず飛ばずの状態が続いて参りました。

1947年1月27日ロータリーの創始者ポール・ハリスがこの世を去り、後に残された

会員たちは、我々はP・Hの遺志を継承するために何を成すべきかを考え、P・Hが亡くなるまで訴えを続けていた事は第二次大戦が勃発し日本が原爆に見舞われた結果、戦争の幕が閉じ、ロータリーの創始者として何の手立ても為し得なかった事を嘆き、第三次大戦を引き起こさせてはならない。その為に、ロータリーは何ができるのか？という様な事を盛んに述べていたそうであります。そこでロータリアン達はロータリーの財団を活かし、P・Hが述べていた平和世界確立の為の一助にすべしという結論に達し、ロータリー財団に光を当てることと致しました。

その結果、財団に寄せられる基金は日増しに潤沢になり今日に繋がっている訳で、多様なプログラムに基金は運用されている処であります。但し、財団への寄附はロータリアンの会員資格の条件とされていません。何の寄附も拠出される人に主体性がある訳でありまして、決して強制や強要されるものではありません。然しロータリアンとして倫理性を持って得た利益の中からの浄財を贈られることが歓迎されるものと認識すべきであります。財団の基金が世界の平和に繋がっていくことは、ロータリーの理想でもある訳であります。

さて、11月『ロータリーの友』に田中R I 会長メッセージが載っておりました。ロータリー財団に関する彼の見解であります。曰く、ロータリー財団はロータリーを支える土台であると述べております。私はそう思えないのであります。ロータリーはロータリー財団が無ければ成り行かない団体でしょうか。皆さんはどの様に受け止められますか。ロータリーがあるから財団があり、ロータリーには深く大きな哲学と思想の土台の上に立ち上がっている太い幹であり、そこから枝として出ているのがロータリー財団であり、日本における米山記念奨学会であるはずであります。田中会長の論理には私は共感できない処であります。

嘗て1997年か8年の当地区大会にR I 会長代理として来られた田中さんは、代理を囲む晩餐会での挨拶で、「私は銀行から1千万円の融資を受けロータリー財団に寄附を致しました。今銀行はいくらでも融資してくれますので皆さんもぜひその様な方法で財団に寄附されるよう、お願いします。」と申されました。私の隣の席に居られました、今は亡き越部P Gが立たれて、「田中さん、この様な席でそんな事を云われるのは心外です。今、我々企業経営者は資金繰りに苦労している最中なのです。あなたの言い分は聞く耳も持たない。」と、激怒なさいました。隣に座しておられた奥様が御主人に「貴方、何故この場でその様な事をおっしゃるのですか。私はもう帰らせて頂きます。」と申され席を立たれ、私は奥様をお宥めするのに苦労いたしました。越部さんが奥様に、後で田中さんとよく話し合いをするからということで一件落ち着いたことを思い出します。田中会長は財団に億単位の寄附をされているとか噂話に聞く処であります。彼がR I 会長への道を歩まれた折に財団が土台で彼を支えてくれたのはロータリー財団であったかと考えるのは下種の勘繰りと云われるかもしれませんが・・・

またある時、佐原R Cロータリークラブの会報を頂戴し読んで見たところ、地区の財団委員が卓話に出向かれて、内容はR財団の話でございました。その一節に、ロータリー財団が無ければロータリーは無いものと同然という様な事を話して居りまして、それを読んで私はやれやれという思いが致しました。地区委員の卓話としては、お粗末の限りであります。先程本日御出席のYさんと目が合ったものですから思い出しま

した。彼とロータリー財団の事で議論いたしました。今ではお互いに理解し合っている仲になっております。

さて、ロータリー財団に関して長々と話を申し上げてまいりました。財団が機能している先には世界平和の夢の現実の一助であると思ひ、本日のテーマ『ロータリーの夢』とは、ロータリーの綱領第4節に記されて居ります処の国際理解と親善平和を確立することを推進することに尽きる処と考えます。その為に綱領の1・2・3節の理解と実践に依らねばなりません。その辺に触れた綱領のお話も申し上げたいと思ひましたが、私の持ち時間が既に過ぎているとの事でありますので、この辺で話を終る事と致します。

御静聴ありがとうございました。



ご挨拶

第13分区 ガバナー補佐 松田 武

本日は、第13分区のインターシティ・ミーティングに大勢の方のご出席を頂き、有難う御座います。

パストガバナー・石井 亮太郎 様には、遠路の所お出で頂きまして有難うございます。野田市副市長・斉藤 隆昌 様、公務のお忙しい中お出で頂き有難うございます。

I. M. とは何かと調べてみました。「ロータリー情報マニュアル」と言う本によりますと「近隣都市、数クラブが集まって開かれるロータリーの会合。討論の主な内容は、五大奉仕部門をカバーしつつ、ロータリーの特徴やプログラム等を検討する」となっておりますが、地区内の各分区では、それぞれのやり方でI. M. を行っています。いくつか紹介しますと、パネルディスカッション・グループに分かれての意見交換・講師を呼んでの講演会等です。

そんな中13分区は、会長・エレクトが次年度に向けて自分の思いや夢等を話すと言う事は、他の分区にはありません。

私も5年前には会長エレクトとしてこの席で緊張しながら出番を待っていました。この、I. M. が終わり「いよいよ会長になるのだ」と覚悟を決めたのを覚えております。

13分区のI. M. は次年度の会長さんの（デビュー）の場と思っております。エレクトの皆さん、皆さんの夢に向かって素晴らしい（スタート）を切って頂きたいと思えます。



ご挨拶

野田東ロータリークラブ

会長 吉澤 太郎

皆様 こんにちは

ゲストの副市長 斎藤隆昌様

本日リーダーをして頂く 石井亮太郎パストガバナー様

ガバナー補佐 松田武様

パストガバナー補佐 熊坂牧子様

本日は御多忙中 ようこそお越しいただきありがとうございます。

情報研究会に引き続き 13分区5クラブの皆様ようこそいらっしゃいました。

総会も終了し来期の役員も決まり、いよいよ来年度に向けてのI.M.です。

本日は5クラブの会長エレクトの方々の『ロータリーの夢』というテーマでのスピーチです。 宜しくお願い致します。

私がいいますに、なかなか実行出来ませんが、毎年、会長、幹事、そして各役委員が単年度で変わり、1年1年が別々に活動するのではなく、前年度、今年度そして次年度と繋がっていくには、今の時期から本気で行動しなければならないと思います。

今回のテーマは せめて今年度が終了する6月までに何か目標と夢を見つけ出し、新年度を迎えたい。そして更なる長期目標を見つけて欲しいという希望から考えたテーマです。

それでは、会長エレクトの皆様 活発なスピーチを宜しくお願い致します。

そして、リーダーの石井様、後程講評を宜しくお願い致します。



ロータリーの夢

野田ロータリークラブ

会長エレクト 伊藤 義雄

野田ロータリークラブの伊藤義雄です。

私は平成4年7月に入会し、早20年が経過しました。

商工会議所青年部の会長を務め卒業して1年後のことです。

当時はまだ野田のS.Cノアが開店して4年目であり組合の理事という立場でノアの運営に携わっていた頃だと思います。

ロータリークラブの活動自体もわからず、その上ロータリーという意味も知らないうちに入会したのを覚えています。

今回のテーマは「ロータリーの夢」です。

ロータリーの歴史を見れば1905年2月23日がロータリー創立記念日とされています。

日本でも1920年「東京ロータリークラブ」が設立されています。

そして野田ロータリークラブは1956年5月に発足しました。

この様に100年以上前のことが綿々と現在に受け継がれていくロータリークラブは素晴らしいと思います。

ロータリーの基本理念である「友愛と奉仕」があるからだだと思います。

職業を通じて社会に貢献するということが非常に分かりやすいようでなかなか難しいと思います。

私は何をすれば社会に貢献できるかと考えています。今、企業にもC・S・R（企業の社会的責任）という言葉があるように少しでも仕事を通じて又ロータリーを通じて社会に貢献できればと思っている。

次年度会長を務めることになるのですが前年に引き続き、まず会員増強を会員全員の協力のもと行いたいと思います。

それと共に外部に対してロータリーのPRし、会員同士の友愛と相互扶助の精神にたってクラブ運営を行いたい。

そのためには一人でも多くの例会出席が無くては成り立たないと思いますので例会出席を促していきたいと思います。

また、ロータリーとしてのステータス性を高めて行きたいと思います。

次年度会長として私なりに精一杯努めたいと思いますのでご指導ご協力のほど宜しくお願い致します。



ロータリーの夢

流山ロータリークラブ

会長エレクト 岸 本 伸 子

皆様こんにちは。

ただ今ご紹介頂きました岸本伸子と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

流山クラブは本年度5月に創立50周年を迎えます。私は第51代会長となるわけですが、50年という伝統と歴史のある流山クラブの会長のお話がありました時は正直とまどいました。

入会6年目でそんな重責はまだまだ先の事と思っておりましたし、素晴らしい大先輩方を前に私で良いのか、また音楽プロデューサーという仕事柄、地方にいることも多く不安と悩みのほうが大きいばかりでした。

でもクラブの皆様からの励まし、支えのお言葉をいただき、私でもできるかもしれない、努力してやってみよう、と今日のこの日をむかえました。

今は身に余る光栄と責任の重さに身の引き締まる思いでいっぱいですが、お引き受けしました以上は伝統ある流山ロータリークラブの名前に恥じない様、精一杯務めて参りますので何卒どうぞ宜しくお願い申し上げます。

先ほど入会6年目と申しましたが、仕事柄ロータリークラブとのお付き合いは長く、職業分類は音楽プロデュース業ですがピアノも弾いたりしますので、クリスマス会やイベントで各地のロータリークラブにお世話になっておりました。

縁あって流山ロータリークラブに入会させて頂きましたが大変あたたかく迎えていただきました。それまでは漠然と、ロータリーは自分を育て、他人を育て、さらには後継者を育成する団体と学んでおりました。

実際に入会してフェロウシップというのを実感いたしまして、流山ロータリークラブが大好きになりました。クラブの皆様には深く感謝いたしております。

少人数ではありますが、逆に委員長をすぐ任されクラブの運営にも参加できるという良さがあります。委員になればクラブの事も覚えられますし、何より例会に出席されました皆様全員とお話ができますから有意義でとても楽しいのです。40歳代から80歳代という幅広い年齢の方々と研鑽しながら仲間になれるのです。

人数が多すぎるクラブさんではお食事での席が離れていれば一度もご挨拶しないまま帰られる方もいらしたりするようですが、それでは少し寂しいような気もいたします。親睦を深めるのには色々な方とお話するのが一番とを感じるからです。

でも少人数のためクラブ機能の充実と予算面では厳しい現実がございます。新しい入会の方を一人でも多くお誘いして、ロータリークラブは素晴らしいよ、一緒に活動しましょうとお伝えして少しでも会員増強ができましたらと思います。

また退会なさる方を減らすことも大きくは会員増強と考えられます。入会したいク

ラブ、退会したくないクラブを目指します。

さて、いただきましたテーマ『ロータリーの夢』ですが。

今の私の気持ちそのものではないかと思えます。大好きな音楽というものを職業とすることができました。その職業を通して職業奉仕ができます。

言葉では伝えられない癒しを音楽を通して伝え、誰かの幸福に結びつくアートを仕事にする事が夢でした。その夢と仕事とロータリーが結びついて今の私があります。このテーマを頂いた時に素直な気持ちでとらえたいと思えました。

自分自身と仕事と社会のつながりを見つめ直す良い機会と思えました。

純粹に音楽を始めた時の気持ち、音楽を通して知り合えた人々との交流、そして美しい音楽を聴いた時の感動、それらが世界中に広がっていくことを考えました。ロータリーの夢は世界につながっていくとを感じるのです。

また当クラブには私の尊敬する音楽の先輩、熊坂牧子氏がいらっしゃいます。『春の風ふれあいコンサート』という素晴らしい活動をされています。私の代では15回目という記念すべき年になります。社会奉仕委員会が中心となり移動例会として会員の皆様も出演なさいます。病院・介護施設の慰問コンサートですので入院されている方と一緒に歌われるのです。

これも音楽を通したロータリーの夢と奉仕活動と思えます。流山ロータリークラブの世界に誇ることのできる奉仕活動と思っております。引き続きご協力、ご参加をどうぞ宜しくお願いいたします。

次年度は音楽とともに楽しく、夢があり、アットホームな出席して良かったと思えるクラブの運営に務めてまいりたいと思えます。併せてロータリーの勉強会も開催していきたいと思えます。ロータリーの理念・哲学・歴史を学ぶことによりロータリーの発展、夢が広がっていくと思えます。

私にはきちんとした言葉で考え話せる社会人になりたいという目標がありました。それには日頃から視野を広く、社会にむけて生活していかなければなりません。実行にはロータリー活動が最適です。夢はどんどん膨らみまたそれが仕事に活かされる。感謝の気持ちでいっぱいです。

まだ等身大の言葉でしかお話できない未熟な自分ですが、一年後少しは成長できると信じて、またクラブの皆様のお言葉、ご指導を頂きながら務めてまいる所存でございます。50年の歴史と51年目の重さ、55年、60年と紡ぐロータリーの輪を大切にロータリアンとしての夢を繋げていきますよう努力してまいります。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。



ロータリーの夢

流山中央ロータリークラブ

会長エレクト 金井 直明

皆さんこんにちは、ただいまご紹介いただきました金井です。

流山中央ロータリークラブも私で27代目とすることで、入会以来14年目を迎えた年男の私が次年度会長を務めさせていただくことになりましたが、重責を感じています。

I.M.の位置付は次年度の紹介と近隣クラブとの親睦です。

自己紹介させて頂き今日一日皆さんと親睦を深めたいと思います。

私は、昭和28年11月2日生まれで職業分類は医薬品販売業です。

調剤薬局の店舗展開を業としてます。流山中央ロータリーに入会14年目です。

今回のI.M.のテーマは（ロータリーの夢）ですが、このテーマを聞いたときから、読み替えて夢のロータリー、社会の夢、事業の夢、家族の夢等共通するところがあると思いました。

社会も事業も家族関係も良いことは望ましい事です。

次年度の活動指針を提示し垂範する事が夢につながるとおもいます。

減少傾向にある会員数にいかに対応するのか、新入会員候補者にロータリーの夢を語れたら、入会もスムーズにいくのか。

事業も時代のニーズや変化に対応しながら、基本の理念はしっかり維持し、夢を抱きゆるぎないものにすべきです。

1905年に発足し、100年以上も続いているロータリークラブも当初はポールハリス、ガスターバスロア、シルベスターシール、ハイラムショウレーの4人がロータリーの萌芽としての会合を初めて開き、理念と夢を織り込んだ規約を作り今では世界200か国に広がり、会員数120万人に拡大しました。

ロータリーを紐解きますと、自分を磨き人を育て、時には慈善活動を行う団体とあります。まずは、ロータリーの原点であり自分を磨く修練の場であるクラブの例会出席率を高めたいと思います。

たまたま昨日、田口ガバナー補佐エレクトも参加して、次年度理事役員の一部の方と次年度の打ち合わせがあり、次年度は、ガバナーエレクトの意向で親睦活動を重点にする方向性ができました。

会員同士の親睦活動に焦点をあわせ今まで以上に親睦活動を行っていきたいと考えます。

流山中央ロータリーは最近ファイヤーサイトも少なくなりました。

例えば、クリスマス例会には以前行っていた、デズニーランドショーに相当する会の、流山市での再開で、会員の家族同士の理解も深めたいと思います。

会員相互が理解を深め、その事を家族も含め理解する事がロータリーの発展には必

要であり、夢につながると考えます。

親睦を中心に地道でアクティブな活動の中に夢のヒントがあるかもしれません。

会長エレクト研修、地区協議会に参加してしかる後に会員の皆さんと相談をしてロータリーの夢について策定するべきと思います。



ロータリーの夢

野田セントラルRC

会長エレクト 古谷 信 承

ロータリー創立者の一人であるポール・ハリスはロータリーに対する思いは今現在、私の行動の指針になっています。

「ロータリーの夢」を、私は「私のロータリーの夢」に置き換えて考えました。その方が私にとって、解り易い事に気が付きました。

では、「私のロータリーの夢」とは何なんだろうか？と考えた時、アメリカのキング牧師は「I Have a Dream」演説で始めに言っている。

人間にとって夢は大切なもの、そして生きて行く為には必要な事なのです。

私のロータリーでの夢は今以上の社会奉仕と今以上の道徳的水準の向上です。

一つの例にて、私個人の考えを述べます。

故人スティーブン・ジョブズは亡くなる少し前、マサチューセッツ工科大で講演でこの様な事を言った。「人間はハングリーであれ、そして愚かであれ」と。彼が創業したアップル社を役員会で解雇され、再びトップになった。私には想像すら出来ない事です。彼の頭の回路の凄さは言葉では言い表す事は出来ない。

そして、彼は癌を患いながら、この講演で「人は愚かであれ」と言ったのです。「傲慢からくる凋落、人間は柔軟に、謙虚に、共に、」の精神を彼は愛社から追放され、病気を患って初めて気付いたのでしょう。そして自分の恥を隠すこともせず、言い放ったのです。彼は今、この世にはいません。又マサチューセッツ工科大は彼の母校でも有りません。

工科大の数人の学生がジョブズを招待したのです。

ジョブズは、「人は人一倍努力しなさい」、それを彼はハングリーと置き換えました。ハングリーだけではダメだ、人間は人一倍努力しても愚かで有るという謙虚の心を持ちなさい、と伝えたかったのだと思います。

今でもジョブズの講演の言葉はその時に居合わせた学生の大きな人生の指針になっているそうです。

私たちロータリアンは周りの人たちに、やらなくてはならない事が私はあると思います。それはどれだけ多くの事を相手に与えたか、よりどれだけ良い影響を相手に与えたかが重要だと私は思います。

夜間例会という当クラブの特性を生かして奉仕理想の精神のもとに活動していきたい。



ロータリーの夢

野田東ロータリークラブ

会長エレクト 沼野 秀樹

皆様、こんにちは。私は、野田東ロータリークラブの沼野と申します。本日は、提言の発表という場を頂きありがとうございます。

私は、あとひと月ほどで五十歳になります。

ロータリー歴は7年です。不惑の年を十年過ぎ、天命を知る年齢に到りますが、未だ迷いは尽きず、使命を自覚するどころか、この先何をしていけばいいのか、何をしたいのかさえわからないのが現実です。なかなか孔子のようには参りません。

私は今、仏具屋の主人を務めておりますが、もともとは違う職業についていました。縁ありまして苗字が変わり、職業も変わりました。

とりあえず長男でしたので、婿入りするとは夢々思っておりませんでした。

以前のままでしたら、ロータリークラブにお世話になることもなく、こうして諸先輩方の前で駄文を発表していることもなかった訳で縁とは不思議で面白いものだと思っております。

さて、本題に入ります。今年のテーマは、「ロータリーの夢」ということです。毎回そうでしょうが今回も難しいテーマです。

一般TVでSF映画の作られた年代別の特徴についての番組をやっていました。七十年代の映画では核戦争後の世界、全体主義国家による徹底した管理社会の世界、巨大なコンピュータが人間を支配している世界、を描いていた作品が多いのが特徴です。

七十年代は、東西冷戦構造の中での核戦争の恐怖、全体主義の台頭、公害問題、食料問題、政治不信などといった明るい未来予測を立てづらい社会状況だったからだという事です。

八十年代、九十年代には、スターウォーズのような割と明るい内容のSF映画が作られるようになったと。しかし、現在では、また悲観的な未来を描いた映画が多くなっているとやっていました。と、いうことは現在の社会状況が明るい未来を予測できない世の中になっているのです。夢とは、希望を語ることで、将来を予想する事ではないのですが、現状でのロータリーの将来は順風満帆とは到底思えません。

グローバルな考え方がスタンダードだと言われる世の中になった割には、日本と中国が抱える尖閣諸島問題でも明らかな様に、国境は断固として存在し、文化・習俗・習慣・人種・民族・宗教等の違いによる諍いや差別は、とどまることやみません。日本でも、高齢社会、就職できない若者、これまで続いていた習慣のあつという間の変化、倫理観の欠如、地方地域の個性の欠如・衰退等ましてやこれだけ長く続くデフレ不況下の現状では明るい夢を見るには無理があります。

まあ、ようやく政権が変わり、アベノミクスとマスコミに持ち上げられている前回お腹が痛くて途中で政権を放り投げた人が、自分のためでなく、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、育成して頂ければ、失われた二十年を取り戻すべく、少しでも良い方向に日本を導けるとは思うのですが。それはともかく。

先般、クラブ奉仕セミナー、テーマ「会員維持のための魅力あるクラブづくりとは」に会長共々出席致しました。グループ討議を行い討議内容の発表がメインのセミナーでした。そこで発表された意見で多数を占めたのは、親睦活動の充実だったと思います。私個人も飲みにケーションを含めた親睦があったからこそ、なんとかこれまで続けられたのだと思っています。

しかし、それはあくまで個人的な思いでして、当十三分区では野田、流山の両クラブが50年以上の歴史、日本最初の東京ロータリークラブにおいては、大正九年の創立です。

親睦団体がこれだけの期間存続するのは、大変難しいことと思われまます。長い期間に渡って組織が活動するには、理念・理想が不可欠であると思います。ロータリーの成り立ちからこれまでの歴史を見ても、紆余曲折がありその時々皆で知恵を絞って、問題を解決しながら時を刻んで来られたのだと思います。今、又ロータリーを含めて世界の人々が大きな曲がり角に差し掛かっているのです。

暗い未来しか思い描けない沈滞した現代ではありますが、真っ暗な闇の中でしか見えない極々僅かな一筋の光明というものがあるそうです。何としてでも、過去の経験に照らし合わせながら歴史を紐解き、今の社会に合った最善の策を見つけ出さなければなりません。

そのためには、奉仕の理想に基づき、職業を全うすることで、人々を幸せに導ける理念をさらに追求、そして普及させることがロータリーの使命であり、今年度田中作次RI会長のテーマである「奉仕を通じて平和」につながると思います。本当の国境なき世界、戦争のない世界を作るために少しでもロータリアンとして、役に立てたら、それが私のロータリーの夢です。ご静聴ありがとうございました。

I.M.スナップ集



会場入口



受付風景



合同例会風景



5クラブの会長さん



会員紹介



パストガバナー補佐へ感謝状



パストガバナー補佐挨拶



ガバナー補佐エレクト挨拶



次年度担当クラブ挨拶

懇親会



ガバナー補佐挨拶



カンパイ!!



リーダーも一息



みんなで歓談



料理を前にして



流山中央RCと



野田セントラルRC



リーダー、補佐、バスト会長
ときれいどころ



数少ない愛煙家たち



青木さん！何の相談？



(田口さん) 来年よろしく!!

